

IT運用の自律化を加速し、デジタル変革を支援する

統合システム運用管理「JP1 Version 12」

企業のIT部門には複雑化したIT環境の全体管理や、業務のさらなる効率化が求められています。そこで日立は、国内運用管理ソフトでトップクラスの実績を誇る「JP1」を進化させた「JP1 Version 12」をリリース。IT環境全体の見える化や業務プロセスの自動化を促進する新機能の提供で、企業のデジタルトランスフォーメーションを強力に支援します。

IT環境全体の可視化と業務プロセスの自動化を促進

デジタル変革の取り組みがグローバル規模で加速するなか、企業では破壊的なビジネスモデルを持つ新興勢力や競合企業に対抗するため、ビジネス全体におけるデータの有効活用と迅速な経営判断がますます重要な課題となっています。また、働き方改革や労働人口の減少に向け、AI^{*1}やRPA^{*2}などのテクノロジーを活用した業務プロセス改革の推進も求められています。

こうした状況下で企業のIT部門には、社内の各部門が利用するマルチクラウドや基幹システムなど多様なIT環境の全体管理と、そこから生み出されるデータを意思決定に活かすための価値創出、さらにはRPAなどを活用するさまざまな部門の業務効率向上をトータルに実現していくことが必要となってきました。

そこで日立は、企業のデジタル変革における業務プロセスの最適化を支援するため、2019年で発売から25周年を迎える統合システム運用管理「JP1」において、このたび「JP1 Version 12」をリリースしました。

「JP1 Version 12」では、多様なIT環境全体の可視化とRPAを利用する業務部門やIT部門など、部門をまたがった一連の業務プロセスの自動化

や進捗管理^{しんちよく}を支援。これにより、経営判断を含めた意思決定の迅速化や全社横断的な業務プロセス改革、さまざまな部門の業務効率向上を可能とし、デジタルトランスフォーメーションに向けた企業力の強化をサポートします。

^{*1} Artificial Intelligence
^{*2} Robotic Process Automation

「JP1 Version 12」の強化ポイント

目的別・立場別の情報可視化で迅速な意思決定を支援する「JP1/Integrated Management 2」

新製品のインテリジェント統合管理基盤「JP1/Integrated Management 2」(以下、JP1/IM2)は、オンプレミスや

マルチクラウド、マルチベンダーシステム^{*3}といった多様なIT環境を一元管理し、発生する事象(イベント)だけでなく、システムの構成情報、アプリケーションの稼働情報などの運用データや、多様なオープンデータなどを組み合わせ、リアルタイムに集約しながらふかんに表示できる製品です。プラグインで収集範囲を継続的に拡大できるほか、企業ごとに異なる、ビジネス判断に必要なデータをエンジニアの知見に基づいて関連づけることもできるため、多様なデータを活用したインテリジェントなIT運用が可能です(図1)。

目的や立場に応じて必要な情報を分かりやすく可視化することで、迅速な意思決定を支援できるのも大きな特長

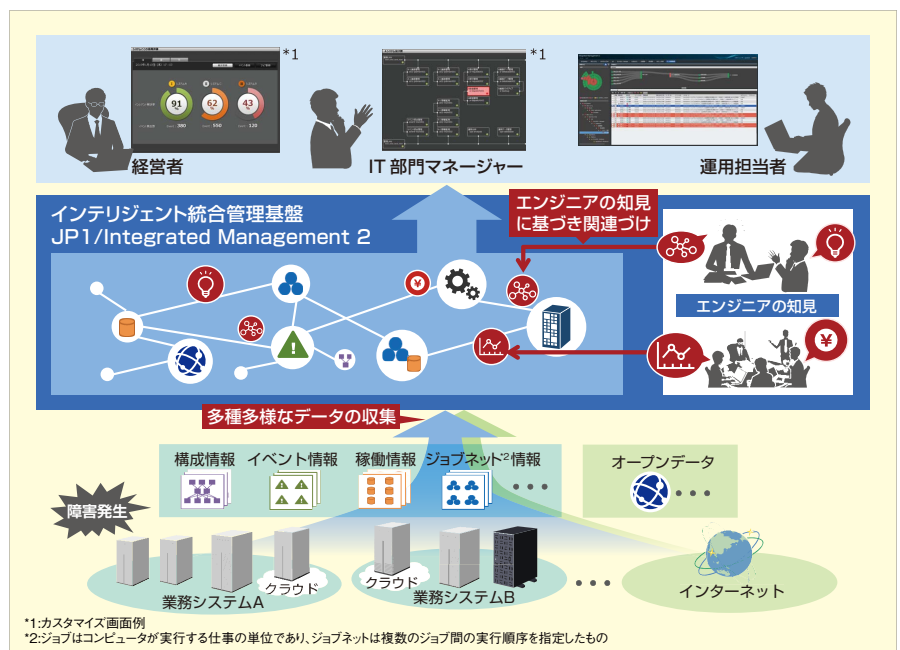


図1 JP1/IM2により、IT環境全体の運用データを一元管理・可視化

^{*1}:カスタマイズ画面例

^{*2}:ジョブはコンピュータが実行する仕事の単位であり、ジョブネットは複数のジョブ間の実行順序を指定したものを

です。例えば、経営者やIT部門マネージャーは、全社を横断した業務プロセスのふかかな把握や、経営に直結する重要なシステムの稼働状況を容易に把握でき、スピーディーなアクションにつなげることが可能となります。

また、JP1/IM2とジョブ管理製品「JP1/Automatic Job Management System 3」(以下、JP1/AJS3)を連携すれば、従来では把握できなかった複数のJP1/AJS3で管理されている業務(ジョブネット)の関連性を見渡すこともできます。これによりIT部門の運用担当者はシステム障害が起きた際、複数のJP1/AJS3にまたがった業務への影響などを容易に把握することで、迅速な対応ができるようになります(図2)。

さらに、JP1/IM2で集めた運用データは、日立のIT運用向けAI^{※4}と組み合わせることで、運用状況の分析・判断や業務プロセスの最適化など、IT運用業務の自律化を図れます。

※3 複数の企業の製品やサービスを組み合わせたシステム環境

※4 IT運用におけるAI活用ノウハウや技術。
「IT運用最適化サービス」で提供

■RPAの利用も含めた一連の業務プロセスを自動化する 「JP1/Client Process Automation」

新製品となる「JP1/Client Process Automation」は、RPAが実行する定

型業務などクライアント環境における業務実行の自動化を制御・監視する製品です。基幹業務のプロセスを自動化するJP1/AJS3と連携することで、これまで自動化されていた基幹業務に加え、クライアント環境で多種多様なRPAが実行する定型業務なども、実行順序や状況をふまえて統合的に管理することができます。

これにより、企業のカレンダーに合わせたスケジュールで業務を実行できるほか、業務部門やIT部門など、部門をまたがった一連の業務プロセスの自動化や進捗管理が可能となり、企業全体の業務効率向上を促進します。

ワンステージ上の運用管理へ

労働人口の減少やIT関連技術者の不足などにより、運用管理に関わっているIT人材には、これからのビジネスに欠かせないITのプロフェッショナルとして、企業価値の向上に貢献することが期待されています。JP1はこれからも、操作や制御の一元化やAI活用によるIT運用の自律化を進め、IT人材がコア業務に専念できるワンステージ上の運用管理の実現に向けて、お客さまのデジタル変革を継続的に支援していきます。

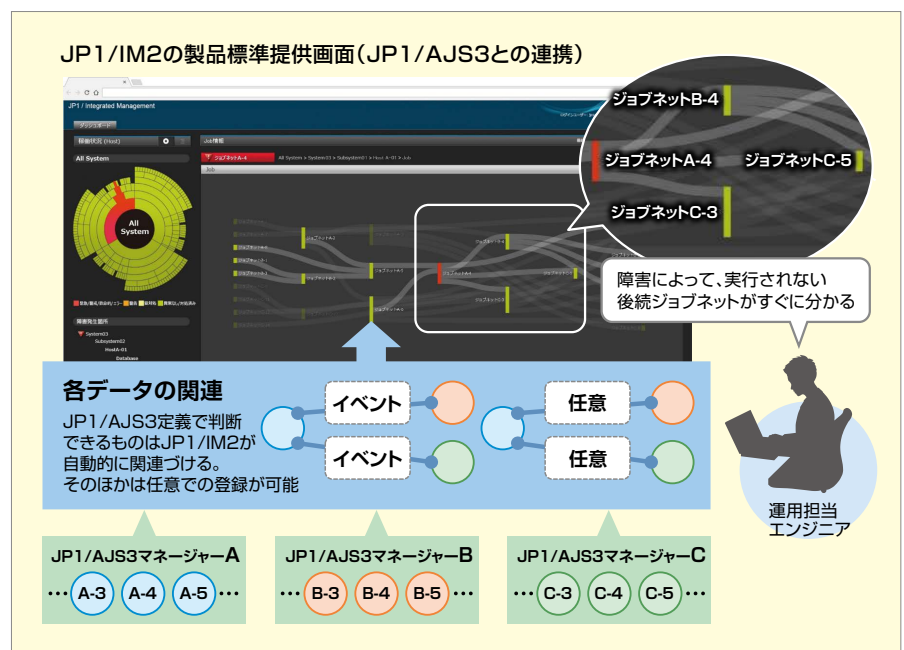


図2 ジョブ管理データを集約し関連性を表示することで、障害の業務インパクトを容易に把握

お問い合わせ先・情報提供サイト

(株)日立製作所 IoT・クラウドサービス事業部
<http://www.hitachi.co.jp/jp1/>